



## R6 年度 わくわく園 入園申請

0 歳児～1 人 1 歳児～9 人

今の 5 歳児 39 人が卒園すると、園児数はこれから激減します。これまで 20～25 人の出生数が期待できるとして園の運営を考えてきましたが、昨年、今年と出生数が 20 人を切りました。

### 少子高齢化社会、人口減少で日本はどうなる？

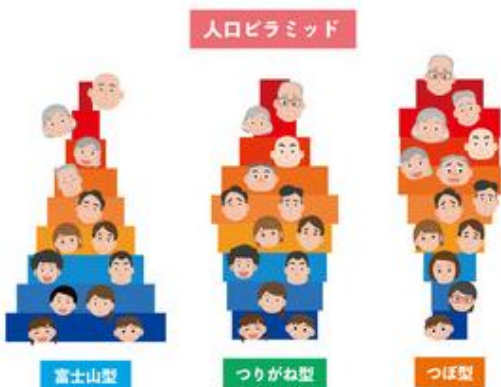
人口減少によって、生活関連サービスの縮小や行政サービスの廃止・有料化が進み、少子高齢化で廃業が増えています。

地域が衰退すれば、治安や居住環境の悪化、災害危険性の増大、生活利便性の低下につながり、さらに人口減少に拍車をかけることにもなるでしょう

～〈予想〉2050 年の訓子府町の人口は、今の半分になる？～

	日本全体	訓子府町	2050 年の訓子府町
総人口	1 億 2,000 万人	4,688 人	2,290 人
年少人口 (0～14 歳)	1,400 万人 (12%)	518 人 (11.0%)	205 人 (08.9%)
高齢者人口 (65 歳以上)	3,600 万人 (29%)	1,853 人 (39.5%)	900 人 (39.3%)

国の少子化対策として「こども家庭庁」が創設されましたが、出生数は毎年、過去最低を更新しています。さまざまな対策をしても急速な回復は望めない状況です。特に地方では、人口減少に歯止めが利かず、深刻な問題になっています。



《人口ピラミッド》 1950～1970 年代（私が子どもの頃）までは、総人口は 1 億人以下でしたが、年少人口の割合が高い富士山型でした。それがその後徐々に出生者数が減って 1980 年ころから釣り鐘型になり、現在は、高齢者の割合が高い逆ピラミッド型のつぼ型になっています。2070 年には、65 歳以上が約 40% になり、労働人口が減少して、日本経済は衰退すると言われています

訓子府町では、保育料や給食費を無償化することで子どもを産んで育てやすい環境づくりに取り組んでいます。

こども園の就園率は、0 歳児は約 50%、1 歳児は 60～70%、2 歳児は 70～80%、3 歳児以上は、ほぼ 100% となっています。毎年、3 歳からこども園に入れて、それまでは自宅で育てるという家庭が一定数います。

国は、異次元の少子化対策として「だれでも通園制度」の実現を目指していますが、幼児施設にみんな預けなさいということではありません。

今年から、園長と子育て支援センター長を兼ねています。支援センターを利用している親御さんは、2 歳くらいまでは、自分で育てたいと思っています。今は多様性の時代です。それぞれの家庭で子育てを考えることが必要です。こども園に預けて働くという選択肢、お母さんが休職して子育てに専念する。または、お父さんも育児休暇を取って夫婦で育児をする。お父さんが休職するケースも考えられます。安心して子どもを産み、育てられる、そうしたことに社会全体で支援することがこれから求められています。

こども家庭庁は「はじめの 100 か月の育ちのビジョン」を示しました。子どもを授かってから、小学校低学年までがだいたい 100 か月です。人生の中で最も重要な時期として捉え、一人一人が健やかに育つことができるようにすることが求められています。これからの子育ては、親とこども園や子育て支援センターとの共同作業になります。

今、未満児の「お楽しみ会」が行われています。子どもの成長に喜びを感じる瞬間です。「子育ては、大変だ！お金がかかる！」など、マイナスイメージだけを強調するのではなく、「子どもは可愛い、子育ては、大変だけれども楽しい」 そう思うことが大事です。

